

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
有馬委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『仲間の子育てを支える』</p> <p>臨床心理士という立場上、ご相談にみえた保護者の方々から子育てのお悩みをお聴きする機会があります。</p> <p>そして、お話の中から理解できたことを共有し、どうすれば問題が軽減するかということに、知見をフル稼働して臨んでおります。</p> <p>一方、自分の子育ての悩みを相談する場所があるとは言い切れず、また、仕事復帰への不安や葛藤を持ちつつも「臨床心理士なら分かっているでしょうと思われるのでは」と、どこかへ相談するチャンスがなかなか見つからないということもあります。そこで、年に1回ですが、就学前の子どもを持つ「子育て中の臨床心理士の子育て支援」と題して、先に挙げました様々な不安や葛藤、あるいは子育ての楽しみをディスカッションしていただける場を提供しています。参加者がまだまだ少ないのですが、このような機会を設けることで、子育て中のママ・パパが仲間と気持ちを共有し、少し安心感を持っていただけるのではと自負しております。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『巡回相談会』『乳幼児精密健診』『発達相談会』『マンパワーの不足』</p> <p>大分県の各自治体では、キーワードに挙げた活動に臨床心理士をご活用いただいております。私たちは他職種の方々と連携しながら、支援や療育の必要な子どもや保護者の早期発見・早期支援に心理の専門職として協力させていただいております。これらの事業は目的が明確で、乳幼児とその保護者の福利ひいては地域の子ども育てという点でも貴重な機会であると思えます。</p> <p>一方、雇用の形態はいまだ非常勤が多く、何らかの欠員が出た場合、なかなか補てんすることが出来ない慢性的なマンパワーの不足が続いている状況です。</p> <p>是非、各自治体の皆様に臨床心理士の常勤化をお願い致したいところであります。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</u></b></p> <p>『妊娠初期の保護者から子どもまで利用できる専門の施設』</p> <p>兵庫県にある「こべっこランド」で、ある子育て研修会の見学に行った時、そこに集まる人の多様さに驚きました。</p> <p>妊娠したと分かった時から情報を仕入れたり相談に乗ってもらえるフロアや、子どもが絵を描いたり本を読んだり出来るフロア、また保護者のための研修のた</p>

委員名	ご意見等
	<p>めのフロアなどがあり、そこに集う子どもから大人までみなさんが有意義に時間を過ごしているようでした。</p> <p>現在大分県でも各施設が充実し、それぞれの地域で子どもや子育て世代に門戸を広げて対応されていることは県民のみなさんに良く知られていますが、妊娠初期の保護者から子どもまで利用できる専門の施設があれば、もっと気軽に子育ての悩みや楽しみを話し合ったり、遊ばせ方や本の読み方などを習ったり出来るのではないかと思います。</p>
尾家委員	<p><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></p> <p>『子どもの権利を学ぶ機会の保障を』</p> <p>CAP等の「子どもの権利」を学ぶプログラムがあるが、学校での実施に地域でばらつきがある様子。従来の道徳学習から一歩進み、アサーションスキルやソーシャルスキルを身につけられる学習に期待します。</p> <p><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></p> <p>『養育支援部門事業の充実を』</p> <p>制度は様々充実していると思うのですが、市町村によって取り組みにばらつきがあるので、一定の水準を保って頂きたい。</p> <p>児童養護では、グレーゾーンの支援に養育支援部門事業の家事支援が必要となる事が多いが、限定的な実施だと足りず、子どもを親元から引き離さなければいけなくなってしまう。</p> <p><u>テーマ③「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</u></p> <p>『一定期間の取り組みではなく、常時実施を』</p> <p>学校区、子供会等でのネットワークは強く、危険エリア、不審者情報等が共有されている。しかし、コンビニ等で、子どもが目につく所に当たりまえにポルノ雑誌が置かれている他、未成年が手を伸ばせば有害図書を手にすることができる状況にある。</p>

委員名	ご意見等
岡田委員	<p data-bbox="395 248 1252 286"><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p data-bbox="395 344 1455 667">理想としては県民総ぐるみの子育てということになるが、現実的には難しい。そこで、現時点では子育てに関わっていない（関わりが弱い）層の住民の意識を変革し、具体的な子育て支援活動への関与を引き出すことが重要である。その取組として、①PTAの子育てネットワーク強化（子育て相互支援のモデル事業実施など）、②祖父母世代の子育て支援強化（子育て支援のマッチング事業など）、③子育て先輩の支援機能強化（少し上の子育てが一段落した先輩が少し下の世代の育てを応援）、などを行っていく必要がある。</p> <p data-bbox="395 725 954 763"><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p data-bbox="395 822 1455 1093">現役子育て世代の交流や意識啓発に加え、少し上で世代のサポーター、祖父母世代のサポーターを要請する必要がある。また、子ども間での「ナナメの関係」を生かし、中高生ボランティアによる小学生や幼児との交流事業も必要である。具体的取組として、自分たちは大分市東植田地区のPTA役員OBOGを中心にPTA活動や子育てを支援することを目的として「東植田子育て支援ネットワーク」を結成し活動している。</p> <p data-bbox="395 1151 1104 1189"><b><u>テーマ③「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</u></b></p> <p data-bbox="395 1247 1455 1570">通学路の危険箇所マップの作成や登下校時の見守り活動などこれまで行ってきた取り組みを継続しつつ、地域住民と子ども達との日常的な交流を促進することにより日頃から声をかけるなどのコミュニケーションを増進し、地域の安全安心の「基礎体力」を向上させることが必要である。そのためには、地域住民が学校に出かけ児童生徒と交流する機会、子ども会などが地域住民と交流する機会を増やし、①互いに顔を認識している状態から、②あいさつプラス1のコミュニケーションが図れるよう、取り組みを進める必要がある。</p>

委員名	ご意見等
賀来委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『学校・自治会との連携』 私の住んでいる地域では、盆おどりや秋の運動会、もちつきなど、自治会の方々と一緒に子ども達が活動できる機会が多くあり、学校でも三世代交流ペタンク大会などを行っています。高齢の方々にとっては、子ども達の元気な声が活力となり、子育て世代や子ども達にとっては、年上の方々から学ぶこともあり、また、いたわる心が生まれると思います。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『家庭以外に集える場の充実』 放課後や長期休暇（夏休み）に、家以外で子ども達が集える場所、安心して過ごせる場所が、たくさんあると良いと思います。例えばそこで、時には工作教室があったり、ゲームのような遊びをしたり。私達も仕事の中で、子育てしている方々が、集まるひろばや、親子で参加できる企画をたくさん考えていきたいです。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</u></b></p> <p>『子ども達が安心して楽しく遊べる場所』 別府には南立石公園と別府公園という、とても大きくて広い公園があります。特に、別府公園は、普段はサッカーをしたり鬼ごっこをしたり、みんなで集まる場所であり、季節ごとにいろんなイベントが開催されて、家族や友達と出かけたりしています。子ども達にとって、思いっきり体を動かして遊んだり、楽しい行事に参加できたりする場所は、とても大切だと思います。</p>

委員名	ご意見等
神田委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『幼児期の教育・保育の環境整備』      保育連合会では県の委託を受け、「保育コーディネーター」の育成をはじめ本年度で三年目を迎えています。幼児期に困りを持った園児、保護者の悩みに対応するだけでなく、就学がスムーズに行くよう、各関係機関との連携にも努力しております。本年度もスキルアップ研修を重ねており、各園、市町村だけでなく、大分県全体で活躍する人材の育成に努めています。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『子どもの人権を尊重する意識づくり』      保育連合会では大分県委託の4つの研修と連合会独自の3つの研修合わせて7つの研修において「人権同和」の研修を取り入れております。また乳児期は周りの大人から愛情を受け「基本的信頼関係」が育ち、そして成長する中で自己を認められるようになり「自己肯定感」が育まれていきます。一人一人の子どもの人権を尊重する事で自分の意見をしっかり持ち、他人の存在も大切にできる子どもの育成に努めています。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安心・安全なまちづくり」</u></b></p> <p>『子どもを犯罪から守る環境づくり』      子ども達が簡単にSNSの使用できる社会にとっても危惧しております。まだ自己解決できない未成年でありながら、いろいろな情報を発信できる現在、子どもが犯罪に関わる機会が増えていきます。大人がSNSの利便性だけでなく子ども達に被害がおこるかを理解し、子ども達に関わるべきだと思います。</p>

委員名	ご意見等
衣笠委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>この点が、最も重要な論点だと思料いたします。</p> <p>先回の会議では、「お母さんが育てやすい環境を」などのご意見が多かったように思いますが、まだまだ「子育ては親、とくに母親がするもの」という価値観が前提となっているように思われてなりません。</p> <p>もちろん、お母さんが子育てを行うことを否定するものではないのですが、お母さん「だけ」ではできないがゆえに、虐待やネグレクトの問題が上がってきているわけで、「お母さんとお父さんが協力して子育てを行う美しい家庭」みたいなお話で収まりきらないところに、この論点のむずかしさがあると思います。</p> <p>子どもを家庭だけで育てるのではなく、もっと地域を含め、社会の中で育ててゆくという意識を持つことが重要ではないでしょうか。いつまでもお母さんとお父さんの責任の下、子育ては「私的な問題」として考えるのではなく、「社会全体で取り組むべき課題」として理解することが肝要だと思います。本会議には、まだまだこの意識が欠けているような気がしてなりません。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>これは私の専門になりますが、地域の中の社会関係を活性化し、地域全体で子育てを行うことができる環境を醸成することが肝要であると考えます。</p> <p>コミュニティ・エンパワメントというのですが、実際に別府市青山地区では、高齢者も子供たちも、安心して暮らすことができる地域づくりにむけて、住民の皆さんが動き出しています。</p> <p>地域福祉推進室などと連携を取りつつ、もっと地域に対してさまざまな「しかけ」をしてゆくことが必要ではないでしょうか。この点について専門的な知見が必要でしたら、いくらでも提供いたします。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>上記と同様です。地域住民と子供たちの関係性、パートナーシップをどのように考えるか、が大変重要になってくるかと思えます。</p>

委員名	ご意見等
古谷委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『人権教育の推進』  12月の人権週間をメインにしながら、年間を通して人権学習を行っている。PTAやオープンスクールを利用し、地域・保護者の方々と人権について考える場を設けている。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『SSWの活用』  子どもの発達上の悩みや友人関係のトラブル等について、週1回来校するSSWが窓口となり、相談活動を行っている。年々、利用者が増加している。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>『見守りパトロール』  自治体と協力して、校区内の安全パトロールを計画的に実行している。また、登下校時に各学校ごとの見守りボランティアの方々が子どもの安全に尽力していただいている。</p>
佐藤委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『子どもが思う気持ちと大人が思う気持ちのズレ』  子どもは大人が思っている以上に大人達の状況を見て聞いており、大人の顔色を見ながら話したりと、子ども達が素直に自分の意見を話していないような気がします。  みんな違っていい、成長も人それぞれ違っており、大人のルールにのせるのではなく、子ども達一人ひとりが描く、ルールをサポートし、自ら乗っていくようにすることを考える。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『行動を移すことが出来ない親へのアプローチ』  子育てに悩み、聞いてほしくて「ホットライン」等へ話をする事が出来る方は良いのですが、自ら扉をノック出来ない精神的に疲れている親への扉を開けるような、心があたたまる母親のような、訪問的な支援が地域にあると良いと思います。</p>

委員名	ご意見等
	<p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>『大人になってからの病は、子どもの頃の愛情が大切』  子ども達の生活の中でも、言葉のいじわるがあると思います。一つ一つは些細な言葉ではあるが、たまったり、度が過ぎたりすると、言われた子の心にはキズが残ります。陰険な行動はイジメへと発展します。私が思う安全・安心は、子ども社会の中で助け合ったり、協力するなど、「大人が見守り、正しい道へと誘導すること」と思っています。</p>
富高委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>現在、とても意識は高いと思われます。  ただ、子育て当事者がまわりの方々への感謝の気持ちをもつことが必要と思われます。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>バランス良く整ってきていると思われます。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>こども達ひとりひとりの名前を呼びあえるまちづくりが大切です。</p>

委員名	ご意見等
仲嶺委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『男性も女性も共に家事や育児に参画』        男性が家事や育児を行うときに「手伝う」という言葉が使われるが、手伝うあるいは手伝ってもらおうという意識ではなく、互いに一緒にやるという意識で行うことが、男性にとっても家事や育児がやりやすくなると思われる。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『気軽に子育ての話ができる場』        近隣に気軽に子育ての話や相談が出来る相手がない場合、地域の子育て支援センターや保育現場がいつでも気軽に子育ての話を出来る場であることを、もっとアピールし、親の心の負担軽減につなげて行く。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>『小さな自然が見近にある町』        ショッピング施設や飲食店街などの近隣地域に小規模ながらも気軽に自然を感じ体験できる場があると、そこを中心に活性化が図れるのではないだろうか。        例：〈たけまちの森〉プロジェクト</p>
中村委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『違いと間違い』        子どもの人権を考えた時、今、「人権＝欲求を通すこと」だと思っている子どもが多くなっている様にも思います。男女の共同参画についても、性別役割分担意識そのものが問題だというより、分担している内容で優劣をつけてしまう気持ちが問題点の基盤なのではないかと思えます。違いを認めようとするあまり、間違いにもフタをしてしまっている場面があるのではないかと感じます。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『きめ細かな支援』        地域の子育て支援サービスには私自身もとてもお世話になりました。        ただ、心底苦しい時、つらい時にそうした場に出で行く事すらできない位、疲れていた時期もあった様に思います。そんな、本当に必要としている保護者へのアプローチを意識し続けていただきたいと思えます。</p>

委員名	ご意見等
	<p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>『関わる気持ちを持つ様に…』</p> <p>子どもは、親の想像をはるかに越えた事をします。どこで、何をするのか、事前に気にかける事が出来る場合もありますが、把握出来ていない場合の方が多い様にも思います。ですから、その場その場で出会った大人の方に、我が子でなくても一言もの申す、声をかける、という意識を持って子ども達と接していただけたら有難いな…と思います。</p>
藤本委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『子どもの権利条約・児童福祉法』</p> <p>社会的養護を必要とする子どもの存在を知る機会を県民に与える必要がある。虐待の実態を公表し、予防と対策の具体的方法を周知する。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『子育て支援者の育成』</p> <p>各界の有識者をひき出す。退職した方々にその持つ力を再度発揮してもらおう。その為のプログラム作成養成講座を行う。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>『ネットいじめ』</p> <p>SNS等の利用制限に本格的に取り組む必要がある。</p>

委員名	ご意見等
松田委員	<p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『地域における子育ての支援』 夏休みの早朝の子どもたちのラジオ体操に関わる事で、子どもたちの健康状態や家庭での関わり、心地よく目覚めたか、朝食を食べたのか・・・などなど、たくさん情報が得られた。 これは子ども食堂を始めるきっかけにもなった。</p>
三上委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>『ワークライフバランス』 特に男性はまだ育児と仕事を両立できる環境が整っていない。人手不足も深刻で、子育てを優先させると妻の尻にしかれているような感覚のある人も多い。 少子化、人手不足、長時間労働の負のスパイラルをどこかで切らないといけないと思いますが、正解がわかりません。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>『ボランティア』 地域の子どもを守ろうと、高齢者らボランティアの方が見守りなどをしてくださっていて頭が下がります。善意に頼りっぱなしではなく最低限の謝礼など、何かしら感謝を伝えることが大切だと思う。してもらって当然では続かない。ボランティア任せには限界があると思います。</p> <p><b><u>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</u></b></p> <p>子どもを狙った犯罪で特に悪質なもの、再犯性の高いものについて情報公開はプライバシーや更生面で問題があるでしょうが、行政でしっかり把握し、子どもを守るために活用してもらいたいです。</p>

委員名	ご意見等
幸野委員	<p><b><u>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</u></b></p> <p>ある調査機関によると、男性に育児休暇取得についてのアンケートを行ったところ実に6割近くが「取得してみたい」と回答したそうです。</p> <p>しかし、実際の男性の育休取得率はわずか2～3%。気持ちはあっても取得できないという現実があります。</p> <p>社会全体で子育てを支えるには、社員の育児参加を企業が容認し推進することが不可欠です。しかし、実際には「マタハラ」「パタハラ」という言葉があるように、これらのハラスメントに対して無知な経営者や人事担当者が多いように感じます。大手企業ではしっかりと教育や研修が行われているようですが、おそらく中小零細では経営者の意識が希薄な場合はほとんど教育が行われていないと思います。</p> <p>そこで国や行政がハラスメント防止用に作成したチラシやパンフなどを県内の（特に中小零細企業）に配布してみてもどうでしょうか？これらの資料は労働関係の役所や施設に行けば誰でも目にすることができますが、率直に言ってこのような資料を見るためにわざわざ足を運ぶ人はほとんどいないと思います。</p> <p>せっかく良い内容を記載しているのに知られていないことは非常にもったいないですし、これらの資料を目にした経営者や人事担当者の中で「こんなことがハラスメントだったの?!」「こんな法律があったの?!」と驚く方も必ずいると思います。</p> <p>是非、検討して頂きたいです。</p> <p><b><u>テーマ②「地域における子育ての支援」</u></b></p> <p>よく高齢者福祉施設に保育園児が慰問する光景を目にしますが、その際に高齢者の方々が見せる笑顔はすごく良い表情でとても印象に残っています。是非、行政としても各保育園や高齢者施設と連携し、このような活動を支援して頂きたいと思います。</p> <p>また、高齢者が先生となり子供たちに何かを教える「勉強会」を積極的に開催してほしいです。例えばコマ回しや凧揚げなど昔の遊びを教える、子供たちと一緒に野原を散策して花を植えたり虫を捕ったりするなど、高齢者も子供たちに「教える」ということで生きる活力になると思います。子供にとっても新たな学びを得る良い機会ですし、NPOなどと協力して地域の高齢者と子供たちとが集うことができるイベントを開催してはどうでしょうか。</p>

委員名	ご意見等
吉岩委員	<p><b>テーマ①「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」</b></p> <p>『ソフト面とハード面をつなぐもの』          みんなで支える意識づくりの醸成の為には、ハード面（広報や制度のツール）とソフト面（対象者を支える人達）をつなぐ役割の活性化が求められると思う。制度の狭間に入ってしまった人を援護するのが、地域住民や民生委員、社協であると考えている。</p> <p><b>テーマ②「地域における子育ての支援」</b></p> <p>『子ども食堂』          県社協では、食を通しての地域の子どもの居場所づくりとして、子ども食堂の推進を関係機関と連携して行っています。子ども食堂の手引きや連絡協議会を設立し、より良い活動ができるよう支援をしています。</p> <p><b>テーマ③「子どもにとって安全・安心なまちづくり」</b></p> <p>『自然と触れ合える環境』          自然とたくさん触れ合える公園が多いのは、嬉しい限りである。</p>